

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000089		
法人名	株式会社ユーアンドエヌ		
事業所名	いきいきの家くりもと		
所在地	千葉県香取市高萩765-1		
自己評価作成日	令和 3年 2月 19日	評価結果市町村受理日	令和3年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和3年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで静かな場所に「いきいきの家くりもと」はあります。平屋建てで施設内はバリアフリーになっています。少人数でゆっくり過ごす事ができます。くりもとでは「食べる事」に力を入れています。行事食やフリーでの食事は入居者様の希望を伺ったり、職員のアイデアを取り入れ、「食べておいしい」「見て楽しい」をモットーに提供しています。また、入居者様と職員の距離がとて近く、家族と接する様な気持ちで支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の良い点①私たちは栗源の美しい自然の中で専門的知識と技術、そして何よりも熱い心をもって入居者それぞれの個性を尊重しながら家庭的で質の高いケアを提供します。を理念に掲げ「夢プラン」の実践と「ユマニテュード」介護技術の向上を目標としている。年間3~4回の研修・指導が3年が終わる現在、職員はかける声の大きさ・触れる手の優しさ、目線の向け方など利用者の安心・穏やかさに繋げていて、信頼関係が向上し笑顔溢れる施設となっている。②職員の得意・不得意や希望・要望など皆で話し合う機会を多く作る事で働き安い職場作り、職員の意見が反映されている。レクリエーション係は得意や興味のある者が積極的に担当し自由に企画・実行され管理者は見守っている。職員の自主性が重んじられ、自由な雰囲気ややり甲斐とモチベーションに繋げている。③コロナ禍での外出が思うように出来ない中、自然の多い近所への散歩など環境を利用した配慮ある支援が行なわれている。オンラインなど、笑顔を見ながらの面会の仕組みの構築で家族の安心に繋げる事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、個人を尊重しながら質の高いケアを目指しています。入居者様に合わせ無理をせず穏やかに暮らしていける様理念の実践に努めている。日々の変化については、職員全員が共有しています。	理念(表題参照)実践の為「夢プラン」「ユマニチュウド」を打ち立てている。年3~4会定期的な研修・指導で技術は向上し、声の大きさ・目線の交わり方等利用者への接遇改善から信頼関係が生まれ、会話も弾み笑顔が多く見られている。仕事への自信・誇りを持つ職員が多く、モチベーションアップに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしたり近所の方と会話したり自治会に入り行事に参加している。今年はコロナがあり行事は参加出来ていない。	利用者は散歩時に地域の人から花や野菜をもらい、桜を観に行き、床屋やパスタの店で顔見知りの人と話し合っている。職員は町内会や神社の清掃活動に参加し、ボランティアが訪問して手品や体操等が行われ、地域の一員として交流している。また、運営推進会議で台風時等の取り組みの情報発信をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にボランティアに来て頂き、認知症の方について話をしている。コロナの為、ボランティアの方は来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症があり運営推進会議は文章で送付をしています。	運営推進会議は市の担当・区長・民生委員・家族・利者が参加して年6回開催されている。ホームから利用者状況・2か月間の出来事・行事・防災訓練等が報告されている。市の担当者からの介護保険の変更、民生委員からは災害時の独居の人の援助等の意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	通常ならば、運営推進会議の際は市の担当者に参加して頂き、市や近隣主催の会議には参加している。	市の担当者とは運営推進会議で話し合い、メールや電話で分からない事は相談をしている。また、災害時や感染症発生時の対応指導、虐待等の研修、事故報告等で協力して取り組んでいる。香取市連絡会議は各事業所の管理者が集まり、市の担当者と一緒に困っている事等を話し合っ連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束している方はいません。身体拘束をしない介護を目指しています。	虐待・身体拘束について管理者は「お願い」の文章をタムカードの横に掲示して職員に周知している。玄関のセンサー音は確認し、利用者が外に出たい時は一緒に散歩に行っている。身体拘束委員会を毎月開催して事故・ヒヤリハットの集計報告、ユニットミーティングでもリスクのある人への対応や気をつける事等を話し合っって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止が起こらないような環境づくりに取り組んでおり、ネットを使って個々で研修もしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の所相談はないが、研修にいくなどして理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に納得して頂けるまで質問・疑問に答え契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口の説明と何かあったら施設にお問合せ下さいと説明している。	家族は運営推進会議に参加してホームの取り組みを理解し、訪問時には利用者の変化等について話し合い要望も伝えている。また、管理者・職員は受診時の大事な事は事前に連絡し、生活上での落ち着かない時や行事への参加等についてお願いし、毎月居室担当から手紙出して状況を報告し電話もしている。利用者の要望には叶えられることは行い、安全・安心な生活が出来る様に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は常に耳を傾けている。	職員同士又管理者とも、何時も話し合う雰囲気構築されている。都合や希望、得意・不得意など忌憚なく話し合い、シフト・休暇など職員同士で先ず調整している。レク係など得意な人、興味がある人を担当に付けていて、ケアマネでも役割を担当させ、自由に企画・実行を見守っている。仕事への柔軟さが職員の意見を十分に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望を聞き、出来るだけ要望に応えられる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し資料配布を行ったりネットで勉強出来るよう環境を整えてる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市でのケアマネ会やグループホーム会などに参加し交流する機会をふやしているが、現在はコロナ感染症のため機会は減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本来なら入居前に実際に居室などを見学してもらおうが、現在は写真などを見て頂き説明している。また、面談では本人の困り事や希望も伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご家族の希望などを伺い出来る限りご家族の要望に応えられるよう努力し良い関係が築ける様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、ご家族・本人に話をしより良いサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は家族の様に接し、良い関係を築けるよう努力し関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様がより良い生活が出来るよう、ご家族と密に連絡を取りご家族にも協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人などとの関係を大事にし、施設に訪問して頂いたり電話などを使い支援している。現在はWEBも取り入れ行っている。	コロナ禍の今できる事の一つとしてWEBを取り入れ、玄関先とリビングを結んだ面会の仕組みを構築して五家族が実行している。只、来訪しないと出来ない事を踏まえズームアプリを使って遠くに赴任している家族とも顔を見ながら面会出来る仕組みを期待したい。笑顔の写真を毎月送り家族の安心と関係継続に繋げている。	聞き取りの中で「ズームアプリ」の仕組みの良さに気付き、取り入れる事を目標とした。先ず仕組みを構築する事から始め家族の来訪を促し繋ぐ仕組みを詳しく丁寧説明する事から始め今年度中に成るべく多くの家族が実施して安心と喜びに繋げる事を期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置などに気を配り、入居者様がコミュニケーションが取りやすい環境づくりに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に相談等あればその都度対応させて頂いてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・ご家族の要望を伺いケアマネをはじめ職員全員が把握し支援している。	利用者・家族は入所前に見学をして申し込み、管理者やケアマネージャーは面接時に生活歴等や希望を聞きフェースシートに記入しユニットに備置して共有している。入所後は利用者の意向に沿えるよう柔軟に対応出来る事は叶え、家族には何かあると電話をし困っている事や要望を伝えている。職員は日々の変化を介護記録に記録し、ケアマネージャーに伝えケアプランに反映されている	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や趣味などを聞き施設内で出来る事行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせ対応している。また、何か問題がある場合は職員で話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族に希望を伺いカンファレンスなど開きケアの統一をしている。作成ごは子家族に確認して頂いてる。	利用者・家族の意向を聞き、医師の意見は家族と相談し、カンファレンスでは居室担当の要望等を話し合い、ケアマネージャーがケアプランを作成している。ケアプランの内容は職員と確認して意見を反映してまとめ、家族の訪問時に説明し、来れない家族には手紙を添えて郵送している。3か月毎にモニタリングを行ってユニット会議で話し合い、変化時には見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を毎日記録に残し、状況が変化した場合はミーティングを開き情報を共有している。また、申し送りノートも活用し日々のサービスに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で問題点などに対応出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来て頂いたり消防訓練などを行っている。現在コロナウイルス感染予防の為にボランティアなどは呼べていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を伺い、要望に沿う様にして訪問診療もあるので適切な医療が提供出来るよう支援している。	入所時に医療受診について説明し、かかりつけ医の継続受診の支援と風邪・腹痛時には職員対応をしている。多くの利用者は提携病院から月2回往診と毎週訪問看護師による健康管理と助言が行われている。急変時には管理者の指示により救急車か受診の対応と家族に連絡し、受診後は「受診・往診ノート」で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が来所し職員が気づいた点を書いておく訪問ノートと職員と会話をしながら診て頂いている。また、看護師から助言があればスピーディーに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは	入院した際は入院先の相談員と連絡を取りながら調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明させて頂き、同意を取っている。また、重度化や週末期が近づいてきている時は家族と密に連絡を取り情報を共有できるよう努力している。	看取りについて世間のニーズ、家族の希望等から実施の方向は打ち出している。先ず職員と会議で取り上げ、色々な意見を集約し同方向に認識が固まってから行動に移す必要があると認識している。マニュアルの整備と検討会、事例検討会、医療体制の見直しなどロードマップを作り時間を掛け、職員の負担の軽減を図りながら進める事を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し急変時や事故等に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立ち合いの元訓練を行っている。	15号台風災害は5日間の停電があり本部と連携して提携医療機関・老健・関連施設への避難と職員もその施設に移動して対応に努め無事に乗り切る事が出来た。その体験を基に法人として災害対策の規程とマニュアルの見直しが行われている。また、19号台風時にはレベル発令に対応して関連施設へ避難がスムーズに行われた。管理は災害時の決断の難しさを今後に活かす事と備蓄の見直しを行っている。防災訓練は年2回機器点検と避難訓練が実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	遭遇研修を行ったり言葉かけには十分気を付けている。	ユマニチュード研修が始まって3年が経過し年3～4回午前・午後に別れて研修・指導が行なわれ、介護技術力は向上している。正面からの目線や声の質・大きさ、触れる力加減などユマニチュードを基本として、尊厳に寄り添った支援が行なわれている。利用者との関係も向上し会話が弾み笑顔が多く見られる。仕事への自信・誇りがモチベーションになり、アンケートにも元気・笑顔が多い施設との評価が多くあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に会話ができる環境作りや自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ希望がある場合は出来るだけ添える様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意して女性は化粧やマニキュアをする機会を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嚥下や咀嚼能力にわせ食事を準備し嗜好にも配慮し提供している。テーブル拭きや皮剥きなど出来る方にはお手伝いをして頂いている。食事が楽しみになる様、外食や食レクなどを取り入れている。現在はコロナウイルス感染予防の為、外食は控えている。	食事は力を入れて取り組み、フリーの日を設けて利用者の希望を聞いて普段食べられないマックやピザ、焼き肉パーティ等が職員のアイデアを活かして行なわれている。職員は食事のアイデアをInstagramに載せて他施設から良い反応がある。誕生会には手作りのケーキで祝い、七夕にはちらし寿司等行事食を提供して食事を楽しむ工夫が行われている。利用者は飾り付けや混ぜる等出来る事は行い、その人に合わせて食形態の工夫も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量はチェック表に記録し管理をしている。食事量や水分が足りない方には代用品を用いて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず行っている。歯磨きが出来ない方には口腔スポンジなどを使って支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムに合わせて誘導・交換を行っている。出来るだけ、トイレで排泄出来るよう支援している。	排泄チェック表からリズムを把握して時間や仕草を見て声かけをして排泄を支援している。拒否人には無理強いせず、人や時間を変えて支援している。ユニット会議では夜はオムツでも昼間はリハビリにする等利用者に合わせた対応を話し合っている。水分の摂れない人には甘いもの・炭酸・みそ汁を多くして1000ミリ以上の水分摂取して便秘予防に取り組み、便秘の人は医師と相談をして下剤の使用が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で便秘予防に努めている。また、冷水や牛乳なども使い管理している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人個々で対応し、ゆっくり入浴して頂いている。また、拒否があった場合は無理に行わず時間、曜日を改めている。入浴剤を使用したり、ゆずや菖蒲なども入れて季節を感じて頂いている。	利用者の意向を確認して1日に2～3人づつ急がずにゆっくりと時間をかけて入浴が行われ、清拭や足浴も行われている。入浴時はバイタルチェックをし、浴室や脱衣所を温め、季節にはゆず湯に入り、痣や打ち傷のチェックをして報告をしている。1:1の入浴は会話や歌を歌って楽しみの時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調などに合わせて休息をしていただいている。また、寝具の清潔を保つ事で気持ちよく休息が取れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の効能・副作用は職員が確認出来るようになっている。また、内服時は誤認防止の為、職員2名で確認を行っている。内服して変化があった場合は記録に残し、主治医・訪看に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事・出来ない事を個々で見極め、役割を決め出来る方には行って頂いている。また、得意な事などを取り入れて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など外に行きたい方は職員と一緒に出掛けている。現在はコロナウイルス感染予防の為、なかなか買い物などの外出は出来ない。	コロナ禍でレクリエーション外出が行えない今、少しでも外の空気に触れ風や季節を感じストレスの軽減に繋がるよう細やかな配慮での外出支援が行なわれている。コロナが収束したら何処に行きたいか等話題に取り上げ楽しみな外出のプラン作成に余念がない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いをお預かりして、管理している。要望があれば使える様になっている。高価な物の購入の場合はご家族に報告・了承を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、手紙・電話は自由に行う事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリーになっており、季節を感じられる装飾を行ったり温度・湿度は温度・湿度計で管理している。	大きな窓からいっぱいの日差しが明るく、ゆったりとした雰囲気のある共有空間となっている。温度と湿度の目標を設定して管理し、特に加湿器を増設し洗濯物を室内に干して湿度目標の50～60%が維持されている。クリスマス会に向けて利用者で作った飾り物が天井から吊るされ季節感とイベントを盛り上げる演出効果となっている。リビングは体操・歌・洗濯物たたみ等皆が楽しみ・ゆっくりと過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビやソファがあり好きな場所で過ごす事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の搬入が出来る事を入居時説明しています。	利用者の大切なタンスや写真を持ち込み家庭の延長になるような設えとなっている。物を多く持ち込まないで導線を確保し、ベッドは身長に合わせて立てる角度に調整をし、寝る時には低くして転落を防いでいる。温度・湿度管理を心がけ、のどの弱い人には家族に依頼して加湿器入れて配慮している。夜間巡回で安全確認が行なわれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階平屋であり、常に職員の目が届く様になっており安全に配慮しており、その中で自立した生活が出来るよう支援している。		

## 目標達成計画

作成日：令和 3 年3 月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	現在、WEB面会や窓越し面会を行っているが、施設へ直接来て頂いての面会になってしまう。	遠方の方やなかなか施設へ来て面会が出来ない方になるべく多くの方に面会をして頂ける様にしたい。	ZOOMや携帯のテレビ電話機能などを取り入れていきたい。	6か月
2	33	現在、看取りは行っていない。	今後、指針などを整備し看取りを行っていかねなければならない。	マニュアル・環境等の整備をして職員との話し合いの場を設け少しずつ進めていきたい。	6か月
3					
4					
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。